

(対象事業：~~地域連携強化事業~~、地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
・国際交流拠点形成事業)

事業名：徳島平和ミュージアムプロジェクト

事業者名： 徳島平和ミュージアムプロジェクト
実行委員会

住所：徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内

TEL：088-668-3636

FAX：088-668-7197

HPアドレス：<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/2010kibanseibishienjigyo/>

連携事業者名：徳島県立図書館、海陽町立博物館、松茂町
歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館、神
山町神領小学校、財団法人徳島県国際交流協
会、四国地域史研究連絡協議会

会 場：徳島県立博物館ほか

事業期間：平成22年5月20日 ～ 平成23年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

事業者の中核である徳島県立博物館は、「徳島の自然・歴史・文化の宝箱―県民とともに成長する博物館―」を基軸とする使命を確認している。

本事業は、博物館資料を中心とする様々な資料・情報をもとに、地域の視点から「戦争と平和」について考える機会を提供しようとするものである。また、博物館関係施設のみならず、国際交流関係団体や国外の博物館も含めて、幅広い連携を行うことで、今後の活動の充実につなげようとするものでもある。県民の学びの深化とネットワークの強化による地域的な博物館力の向上を図るという点で使命にリンクするものである。

2. 企画内容

①事業目的

地域の視点からの「戦争と平和」について考える機会を提供する。とくに、子どもを中心とする若い世代への浸透をはかる。また、博物館関係施設とともに、国際交流関係団体や学校、国外の博物館等との連携を図ることで、地域的な博物館活動の向上につなげる。

②事業概要

昭和初期の1920年代、悪化しつつあった日米関係を憂慮して取り組まれた友好活動の証でありながら、昭和63年に里帰りして以来20年余り徳島県民の目に触れる機会のなかった日本人形「ミス徳島」（アメリカ合衆国ワシントン州Northwest Museum of Arts & Culture蔵）を再び里帰りさせ、人形交流の意義を紹介する。また併せて、「戦争と平和」について、現代の生活者の視点から理解できるような展示や各種の普及交流事業（シンポジウム、ワークショップ等）も複合的に展開する。さらに、里帰りの機会を活かした人形「ミス徳島」の制作技法・構造等の調査も実施する。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

■展示

- [1] 特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」
 - ・会期 平成22年7月17日(土)～9月5日(日)
 - ・会場 徳島県立博物館
- [2] 企画展「図書委員が選ぶ戦争の本」
 - ・会期 平成22年7月21日(水)～8月29日(日)
 - ・会場 徳島県立図書館
- [3] 巡回展「海を渡った人形と平和への願い」
 - ・会期・会場
9月18日(土)～20日(月) 貞光ゆうゆう館
9月23日(木)～10月3日(日)
海陽町立博物館
10月9日(土)～10月17日(日)
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館



徳島県立博物館の展示

■普及交流

- [1] 展示解説&紙芝居
 - ・開催日 7月17日(土)・18日(日)・19日(月)・25日(日)、8月15日(日)・29日(日)、
9月5日(日)・24日(金)・28日(火)・10月2日(土)・17日(日)
- [2] シンポジウム「近代四国における戦争と地域社会」(第3回四国地域史研究大会)
 - ・日時 7月25日(日) 12:30～17:00
- [3] 記念演奏&講演会
 - ・日時 8月1日(日) 13:30～15:00
- [4] 神山町神領小学校招待遠足「アリスの里からこんにちは」
 - ・日時 8月10日(火) 9:30～12:00
- [5] ワークショップ「絵手紙をかこう!」
 - ・日時 8月22日(日) 10:00～12:00、13:30～15:00
- [6] 展示室での恒常的なワークショップなど
 - ・ハンズオン・コーナー…紙芝居、スケッチ、空襲遺物など
 - ・ワークシート
- [7] ミス徳島お別れ会(展示終了式)
 - ・日時 10月17日(日) 16:00～16:30



絵手紙の作品例(小6)

■調査研究

- [1] 答礼人形「ミス徳島」の制作技法・構造調査
 - ・期間 平成22年10月26日(火)～平成23年1月18日(火)

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ14,404(+20,000?)人

内訳: 展示13,433人(+20,000人?)、普及交流(恒常的なもの以外)971人

(3) 事業により作成した印刷物等

ポスター B2判 カラー 10,000枚
 チラシ A4判 カラー両面 100,000枚
 パンフレット(図録) A4判 カラー 16ページ 10,000部
 ワークシート A4判 カラー両面 10,000枚
 報告書 A4判 カラー・白黒 112ページ 700部

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事



徳島新聞 2010.6.27 朝刊(社会面)

- ・ 2010. 7. 15 徳島新聞朝刊
- ・ 2010. 7. 16 徳島新聞朝刊コラム「鳴潮」等
- ・ 2010. 7. 17 徳島新聞夕刊
- ・ 2010. 7. 18 朝日新聞(徳島版)、読売新聞(徳島版)、毎日新聞(徳島版)
- ・ 2010. 7. 22 徳島新聞朝刊(高岡美知子氏インタビュー)
- ・ 2010. 7. 27 徳島新聞朝刊コラム「鳴潮」
- ・ 2010. 8. 20 徳島新聞朝刊投書欄「人形さえ焼かれる戦争反対」(小学生) ほか多数

○テレビ、関連誌等

- ・ 2010. 7. 14 四国放送テレビ「おはようつくしまプラス」

- ・ 2010. 7. 15 四国放送テレビ ニュース
- ・ 2010. 7. 18 NHKテレビ（徳島） ニュース
- ・ 2010. 8. 22・23 A I テレビ「テレビミュージアム」
- ・ 2010. 9. 14 週刊教育 PRO 2010. 9. 14 号（栗原祐司氏）
- ・ 2010. 10. 15 文化庁月報 505 号（文化庁文化財部美術学芸課）
- ・ 2010. 10. 15 ミュゼ 94 号「ジャーナルポケット」（高岡美知子氏） ほか

4. 事業の成果及び今後の課題

本事業は、アメリカ合衆国にある答礼人形「ミス徳島」を里帰りさせ、戦争関係資料と連動させて展示することに主眼を置いたものであった。1920 年代の人形交流とその後の戦争の時代への関心を高め、幅広い年齢層の人々が戦争と平和について学ぶ機会を提供することができた。規模の大小はあったが、こうした歴史展示を徳島県内 4 か所で実施したほか、現代っ子である高校生が選んだ戦争についての本を展示する機会も設け、内容的な膨らみを持たせることができた。

歴史展示に関連し、ハンズオンコーナーの設置、ワークショップ、ワークシートの活用、シンポジウムや紙芝居など、多彩かつ盛り沢山の事業を行い、多角的な視点から、また楽しみつつ、戦争と平和という重い課題や資料にアプローチする方法の開拓を進めることができた。

総じて、従来の戦争展や答礼人形里帰り展とは異なった展開が実現でき、展示・普及交流事業全体で 1 万数千人に上る観覧・参加を得た。

アンケート等における記述を見ると、企画自体を好意的に評価する意見が圧倒的に多かった上、紙芝居の上演を買って出てくれた人や資料の寄贈申し込みもあった。図らずも県民の参加・参画が自然発生的に進んだことはうれしい成果だった。

「人形」という切り口の珍しさから、地元マスコミが再三にわたって取り上げてくれたことも幸いしているであろう。

事業の実施主体である実行委員会は、徳島県内の博物館はもちろん、地域史研究や国際交流関係などに関する諸団体からも参画を得て、地域的な連携の幅を広げることにつながった。

さらに、ミス徳島を介してアメリカ合衆国の博物館との相互理解と交流が進み始め、地方博物館における独自の国際交流への糸口をつかむことができた。いずれの連携・交流も、従来、徳島県においてはほとんどなかったものであり、新たな活動展開を進めることができたといつてよいのではないだろうか。

さらに、ミス徳島の調査やアメリカ合衆国の博物館との交流により、新たな知見が得られ、調査研究面での成果も大きかった。具体的には、ミス徳島の制作者が判明したこと、ミス徳島が所蔵先の博物館に収蔵された経緯を示す文書類を確認できたことである。

以上のように、成果は大きかったが、戦争の記憶が薄れつつあることから、今後、戦争関係資料を地域の共有財産として保存・活用する体制づくりを強化する必要がある。今回の地域的なネットワークを基盤としつつ、さらにウィングを広げられるよう取り組みを考えていきたい。また、資料活用の方法としてのワークショップのあり方なども検討していきたい。

さらに、ミス徳島を介して芽生えたアメリカ合衆国の博物館との交流をどのように進めることができるか、考えていかなければならない。